

MUSEUM

ミュージアム・アイズ

EYES

Mm
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

Vol. **75**
2020

特集

明治大学の黒曜石考古学クロニクル

—2020年度明治大学博物館特別展より—



Contents

- 展示&リサーチ …… 2019年度開催企画展 今甦る! 琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展
- 市民レクチャー …… 内藤氏時代の磐城平城について
- 学芸研究室から …… 内藤藩、江戸虎ノ門屋敷の風景
- 博物館活動報告 …… 臨時休館中の取り組みについて
- 収蔵室から …… 内藤家文書の裁許裏書絵図
- 南山大学協定通信 / 図書室から / 博物館友の会から / 博物館入館者数の動き / 団体見学の記録

明治大学の 黒曜石考古学クロニクル

—2020年度明治大学博物館特別展より—

特別展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざす—明治大学の黒曜石考古学—」では、これまで35年余りにわたって展開してきた明治大学の「黒曜石考古学」のあゆみと研究成果をパネルと発掘出土品などを用いて紹介する。ここでは展覧会の内容から、明治大学の文学部、博物館、そして黒曜石研究センターを中心として進められてきた黒曜石考古学の年代記を紹介しよう。

information

2020年度明治大学博物館特別展

氷期の狩人は黒曜石の山をめざす —明治大学の黒曜石考古学—

主催:明治大学博物館 企画:明治大学博物館・明治大学黒曜石研究センター・長和町教育委員会 会場:明治大学博物館特別展示室 入場無料

会期:2020年10月15日(木)~12月15日(火)(会期中無休)

※新型コロナウイルス感染症による明治大学の活動制限指針により、展覧会の中止、一部内容や会期の変更が生じる場合があります。詳細は博物館ホームページの最新情報をご確認ください。なお、展覧会の内容は明治大学博物館 ONLINE ミュージアム (<http://ict-museum-meiji.tokyo>) のバーチャル展示室で後日公開する予定です。

❖ なぜ黒曜石を研究するのか?

黒曜石は火山ガラスの一種であり、石器時代全般にわたって利用された石器石材である。一般に考古学は、直接見ることはできない過去の人々の生活を様々な方法を用いて遺跡や遺物から復元する学問領域である。黒曜石考古学の分野では、限られた原産地から時に100kmを超えて広域に持ち運ばれていた黒曜石に着目する。それは、石器に加工された黒曜石の原産地を同定する化学分析などとの学際研究により、他の遺物からは見えない複雑な過去の人間行動の解明を目的としているからである。



写真1: 中部高地黒曜石原産地 (2011年)

▼写真2: 鷹山遺跡群
(星黄峠から望む、1987年)



▲写真3: 広原湿原
(周囲に遺跡群がある、2013年)

❖ どこを研究してきたのか?

明治大学では1984年以来、長野県の中部高地黒曜石原産地(写真1)で発掘調査や古環境調査を進めてきた。とくに、小県郡長和町(旧長門町)と協力し鷹山遺跡群(写真2:北緯36°9'4";東経138°12'25")と広原遺跡群(写真3:北緯36°9'22";東経138°9'10")をフィールドとした考古学、古環境学、化学分析による共同研究を展開している。

❖ 明大調査以前の鷹山遺跡群 (1950年代~1983年)

長野県内では1952年の諏訪市茶臼山遺跡が初の旧石器時代遺跡の発掘となったが、1955年ごろには独学で歴史を学んだ旧長門町在住の児玉司農武(1899~1971年)により旧和田村の男女倉遺跡群とともに鷹山遺跡群で旧石器が発見され、1961年までに同氏により学界に報告されている。

その後、鷹山遺跡群では茅野市尖石考古館(当時)ほかによる発掘調査が行われており、1980年代までには旧石器時代を中心とした黒曜石原産地遺跡群であることが知られるようになった。

鷹山遺跡群の全容解明と縄文鉦山の発見（1984～1999年）

明治大学では、1984年、文学部考古学専攻の戸沢充則^{とごわみつのり}と安蒜政雄^{あんびるまさお}を中心に、星糞峠黒曜石原産地（標高約1400m）（写真4）直下にひろがる鷹山黒曜石原産地遺跡群の発掘調査を旧長門町教育委員会との共同調査体制で開始した。1984年と89年に第I遺跡M地点（写真5）と同S地点（写真6）で広範囲の発掘調査を行い、旧石器時代の大規模石器製作址の存在を明らかにしている。

その一方、1986・87年と91～93年には、リゾート開発計画に伴う広域分布調査を実施し、鷹山遺跡群の広がりや内容を高解像度で明らかにした。そのなか、星糞峠から虫倉山斜面一帯にある多数のクレーター状の窪地が、縄文時代の黒曜石採掘址であることを発掘調査で明らかにし、1997年までの発掘調査を通して縄文人の採掘活動の実態に迫る成果が得られている（写真7）。



写真4：星糞峠黒曜石原産地（2012年）



写真5：鷹山I遺跡M地点の旧石器出土状況（1984年）



写真6：鷹山I遺跡S地点発掘風景（1989年）



S地点出土の尖頭器



打ち割られた黒曜石（01号竪坑）



写真7：星糞峠01号竪坑（採掘ピット）の発掘（1997年）

表1 明治大学における長野県中部高地黒曜石原産地と遺跡の研究(1984～1999)

年	区分	できごと
1946年	明大調査以前の鷹山遺跡群	鷹山地区への入植はじまる
1955年		児玉司農武、鷹山遺跡群を発見、学界に報告
1961年		信州ローム研究会、鷹山遺跡群第I遺跡の分布調査
1964年		尖石考古館、鷹山遺跡群第I遺跡の第一次発掘調査
1965年		同前第二次発掘調査
1968年		同前第三次発掘調査
1976年		中村龍雄・児玉断・児玉修ほか、鷹山遺跡群第VII遺跡の発掘調査
1983年		森嶋稔ほか、鷹山遺跡群第VI・VII遺跡の発掘調査
1984年	鷹山遺跡群と縄文鉦山の研究	森嶋稔・明治大学考古学研究室、鷹山遺跡群第I遺跡M地点ほかの発掘調査
1986年		鷹山遺跡群調査団、鷹山遺跡群の第一次分布調査
1987年		同前第二次分布調査
1989年		鷹山遺跡群調査団、鷹山遺跡群第I遺跡S地点の発掘調査
1991年		鷹山遺跡群調査団、鷹山遺跡群リゾート開発区域の第一次広域分布調査 鷹山遺跡群調査団、星糞峠黒曜石採掘址群第1号採掘址の第一次発掘調査
1992年		鷹山遺跡群リゾート開発区域の第二次広域分布調査 鷹山遺跡群調査団、星糞峠黒曜石採掘址群の第一次測量調査および第1号採掘址の第二次発掘調査
1993年		鷹山遺跡群リゾート開発区域の第三次広域分布調査 星糞峠黒曜石採掘址群の第二次測量調査、第1号採掘址の第三次発掘調査 星糞峠黒曜石採掘址群発掘成果の新聞報道（読売新聞9月12日朝刊一面） 星糞峠黒曜石採掘址群第1号採掘址の第四次発掘調査
1994年		鷹山遺跡群調査団、星糞峠黒曜石採掘址群星糞峠主要調査区・第39号採掘址ほかの第一次発掘調査
1995年		同前第二次発掘調査
1996年		同前第三次発掘調査
1997年		鷹山遺跡群調査団、鷹山遺跡群星糞峠黒曜石採掘址群の第三次測量調査
1998年		同前第四次測量調査
1999年		

◆ 明治大学黒耀石研究センターの設置と学術フロンティア推進事業 (2000～2004年)

いまだ「大学における地域連携」という言葉も一般化していない80年代前半から蓄積した旧長門町との発掘調査や地元へのアウトリーチの実績にもとづいて、2000年に明治大学と旧長門町は『明治大学と長野県小県郡長門町間における黒耀石研究活動の推進に関する協定書』を締結した。さらなる研究推進を図るべく、明治大学は、2001年に『文科省学術フロンティア推進事業「石器時代における



写真8: 明治大学黒耀石研究センター (2012年)



写真9: 長和町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム (2012年)

黒耀石採掘鉦山の研究』(研究期間:2000～2004年度)の研究拠点として明治大学黒耀石研究センター (Center for Obsidian and Lithic Studies, Meiji University: COLS) を鷹山遺跡群第XII遺跡に設置(写真8)。ついで旧長門町も2004年、COLSに隣接する長門町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム(写真9)を開館させる。なお、2001年には星糞峠の縄文鉦山が国史跡「星糞峠黒耀石原産地遺跡」に指定されている。

◆ 地域連携事業の推進 (2005～2009年)

2005年にCOLSが明治大学博物館分館(杉原重夫館長)に位置付けられると、2006年に明治大学と長和町は『明治大学及び長野県長和町間における社会連携事業の推進に関する協定書』を結んだ。この間、明治大学社会連携機構により各種の地域連携事業も盛んとなる。これらの一環として、『文科省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」』にもとづき、長和町の黒耀石をはじめとする歴史遺産を活用した『広域連携による地方活性化のための潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム:博物館ボランティアの育成』(2007～2009年度)(写真10)や『長和町民大学』(2007年度～継続中)(写真11)を実施し、考古学の枠を超えて明治大学と長和町の研究リソースを活用する事業を展開している。



写真10: 「歴史遺産ボランティア育成プロジェクト」開講式 (2007年)



写真11: 「長和町民大学」講義風景 (2007年)

◆ 学際研究「ヒト-資源環境系の人類誌」の展開 (2010～2020年現在)

COLSは、2010年に明治大学研究・知財戦略機構付属研究施設(小野昭センター長)に位置付けられた。以来2020年現在にいたるまで、『文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」』(2011～2015年度)(研究代表者:小野昭)を中心に科研費など外部資金による共同研究プロジェクトを実施している。これらのプロジェクトは、



写真12: 広原遺跡群II遺跡の黒耀石集石(約3.5万年前) (2013年)



写真13: 広原遺跡群II遺跡の発掘風景 (2013年)

長和町にある標高1400mの広原湿原と広原遺跡群の考古・古環境調査(写真12・13)を核として、中部高高原産地の過去3万年間の植生史と森林限界の推移を復元し、先史時代人類が中部高地の黒耀石資源獲得をめぐる当時の環境や景観へどう適応したか、その実態と変化を追求している点に独創性がある。具体的な研究の成果については、展示で紹介する。

◆ 明大黒曜石考古学の国際発信

また、COLSはこの時期に、複数の海外機関との研究協定をはじめ、海外研究者の招聘による国際ワークショップの開催や、国際黒曜石会議（IOC）などの国際学会での研究発表など、黒曜石考古学の国際的な交流と発信を積極的に推進している（写真14）。これは現在の「明大黒曜石考古学」が、国際的な広がりでもって展開している先史時代の黒曜石研究に具体的にコミットしている、そういう段階にあることを意味している。

このように35年余りのあゆみが示す「明大黒曜石考古学」は黒曜石原産地と遺跡、そして現代の地域社会に根ざし、かつ学際的・国際的な研究の双方にひろがりをもっており、明治大学の独創的な研究活動の一つであるといえるだろう。

（島田和高：博物館考古部門学芸員、黒曜石研究センター員）



写真14：星糞峠のエクスカージョン風景
（国際第四紀学連合 名古屋大会、2015）

表2 明治大学における長野県中部高地黒曜石原産地と遺跡の研究(2000～2020)

年	区分	できごと
2000年		文科省学術フロンティア推進事業『石器時代における黒曜石採掘鉱山の研究』開始 『明治大学と長野県小県郡長門町間における黒曜石研究活動の推進に関する協定書』締結 明治大学黒曜石研究センター用地内遺跡発掘調査団、鷹山遺跡群第XII遺跡黒曜石研究センター地点の発掘調査
2001年	COLSの設置と学術フロンティア推進事業	明治大学黒曜石研究センター(Center for Obsidian and Lithic Studies, Meiji University: COLS)の設置(明治大学人文科学研究所)
2002年		COLS、星糞峠黒曜石採掘址群第123号採掘址の第一次発掘調査
2004年		星糞峠黒曜石採掘址群が国史跡「星糞峠黒曜石原産地遺跡」に指定される COLSと長門町教育委員会、星糞峠黒曜石採掘址群第123号採掘址の第二次発掘調査、01号竪坑の発掘調査
2005年		COLSと長門町、黒曜石サミット国際研究集会開催 長門町立星くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアム開館
2005年		文科省学術フロンティア推進事業『石器時代における黒曜石採掘鉱山の研究』終了 明治大学黒曜石研究センター(COLS)の改組(明治大学博物館分館) 長門町と和田村の合併により長和町が発足
2006年	地域連携事業の推進	『明治大学及び長野県長和町間における社会連携事業の推進に関する協定書』締結
2007年		明治大学と長和町、文科省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」『広域連携による地方活性化のための潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム:博物館ボランティアの育成』実施(2007～2009年度)
2008年		明治大学と長和町、『長和町民大学』(明治大学・長和町連携事業)開始 鷹山遺跡群調査団、星糞峠黒曜石採掘址群第1号採掘址の史跡整備関連調査を実施(2007～2019年度)
2009年		明治大学と長和町、文科省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」『広域連携による地方活性化のための潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム:博物館ボランティアの育成』実施(2007～2009年度) 同前(2007～2009年度)
2010年		明治大学黒曜石研究センター(COLS)の改組(明治大学研究・知財戦略機構付属研究施設)
2011年		COLS、文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築』開始 COLS、広原湿原・広原遺跡群の第一次考古・古環境調査(第I遺跡・第II遺跡)実施 COLS、蛍光X線分析(XRF)による黒曜石原産地分析システム構築開始(2020年現在継続中) COLS、ロシア科学アカデミー極東支部地質学研究所と研究交流協定 COLS、国際第四紀学連合(INQUA) XVIII Congress, Bern参加 COLS、国際ワークショップ:Methodological issues of obsidian provenance studies and the standardization of geologic obsidian開催
2012年	共同研究「ヒト-資源環境系の人類誌」と国際交流	COLS、広原湿原・広原遺跡群の第二次考古・古環境調査(第I遺跡・第II遺跡)実施 COLS、国際ワークショップ:Lithic raw material exploitation and circulation in prehistory: a comparative perspective in diverse palaeoenvironment開催
2013年		COLS、広原湿原・広原遺跡群の第三次考古・古環境調査(第I遺跡・第II遺跡)実施 COLS、'Stories Written in Stone' International Symposium on Chert and Other Knappable Materials, Iasi (Romania)参加 COLS、パウ黒曜石博物館(サルディニア)と交流協定
2014年		COLS、広原湿原・広原遺跡群の測量調査実施 COLS、国際ワークショップ:COLS International Workshop for Young Scientists開催 COLS、キエフ国立大学(考古学科)と研究交流協定
2015年		COLS、国際第四紀学連合(INQUA) XIX名古屋大会参加
2016年		文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築』終了 COLS、研究成果報告書『長野県中部高地における先史時代人類誌』刊行 COLS、International Obsidian Conference 2016, Lipari, Italy参加
2017年		COLS、国際ワークショップ:Palaeoenvironment and lithic raw material acquisition during MIS2 and early MIS1: a comparative perspective開催 COLS、資源利用史研究クラスター、シンポジウム:国史跡が拓く縄文の世界II「海と山の1万年-縄文早期の生業と社会-」開催
2018年	資源利用史研究と高精細原産地分析システムの構築	COLS、シンポジウム:国史跡が拓く縄文の世界II「真福寺貝塚と縄文後晩期の社会」開催 COLS、シンポジウム:「ナイフ・石鏃・磨製石斧 - 石材資源とその流通 -」開催 COLS、シンポジウム:「トチの実加工場は存在したのか? - 縄文時代の木組遺構とその機能を考える -」開催
2019年		COLS、矢出川湿原の古環境調査を実施 COLS、International Obsidian Conference 2019, Sárospatak, Hungary参加 COLS、XRFと誘導結合プラズマ質量分析(ICP-MS)による原産地分析の共同研究開始 COLS、シンポジウム:「海峡をつなぐ資源と道具」開催 COLS、シンポジウム:「砂川遺跡-旧石器時代研究の現在・過去・未来-」開催
2020年		新型コロナウイルス感染症による行動規制のなか、研究継続中・・・
2020年		

2019年度開催企画展 今甦る! 琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展

福田由里子

(東近江市文化スポーツ部 歴史文化振興課)



展示室エントランス

●…… はじめに

雪野山古墳発掘30周年記念展「今甦る! 琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳」(会期 2019年10月4日～10月27日 主催 東近江市・明治大学博物館・明治大学文学部考古学研究室)を開催しました。関東地方では初めて雪野山古墳の主要な出土品を一堂に公開し、近江の古代王者の姿から、古墳時代前期(3世紀中～4世紀)の古代国家黎明期の歴史を紐解きました。



銅鏡出土状況

●…… 雪野山古墳とは

雪野山は、滋賀県南東部の湖東平野に位置する湖東流紋岩からなる独立山塊の一つです。雪野山古墳はその山頂(標高308.8m)に位置します。古墳からは東に鈴鹿山系、西に琵琶湖を見渡すことができます。平成元年(1989)に始まった発掘調査の成果により、全長70mの前方後円墳であることが判明し、卑弥呼の鏡といわれる三角縁神獣鏡をはじめとする豊富な副葬品が出土しました。未盗掘の状態が発掘調査された数少ない事例で、出土品218点附棺材が平成13年に重要文化財に指定され、古墳は平成26年に国史跡に指定されています。

●…… 未盗掘古墳の副葬品一括資料を展示

古墳の後円部中央に築かれた竪穴式石室内部には、被葬者を安置した木棺が置かれ、木棺の内外に副葬品が納められていました。雪野山古墳の副葬品は、多種類に及ぶもので、古墳時代前期の宝器を網羅しており、被葬者の権力を象徴しています。

被葬者の頭部と足元を守る銅鏡5面は、精緻な文様が美しく、美術工芸品としても一級品です。三角縁神獣鏡と古式の国産鏡が同時に出土したことも、学術的に貴重です。古代の祭器と



ギャラリートークの様子

しては鏡・玉・剣が知られますが、碧玉でできた石製品5点とガラス小玉2点、刀剣類8点が見つかっています。鉄製品は、鉄製冑1点、豊富な種類の鉄鏃43点、鉄製ヤス、刀子、鉄鎌、鉄ノミなどの鉄製農工漁具21点のほとんどすべてを展示しました。また、銅鏃は全国でもトップクラスの96点が出土しています。展示では、銅鏃の中で鉛を多く含むノミ形のものや矢柄が残るものについては状態がやや脆弱であり、輸送に危険を伴うことから展示から外し、96点のうち50点を展示しました。

雪野山古墳の副葬品で特筆されるのが多種類に及ぶ漆製品です。特に棺内北側に置かれた弓矢の矢筒「鞆^{ゆき}」は、絹糸を皮箱に巻き付けて漆で固めたもので、非常に残りがよいものです。文化財保存修理を実施し、展示台となる桐製台とエアタイトケースを持ち込んで展示したことで、間近に見ていただくことができました。漆製品は鞆2点、鞆の背負い板1点、半円形漆製品（鞆の蓋と推定）1点、合子1点、竪櫛26点、短甲状漆製品1点、槍の柄や弓矢の柄の漆膜など5点を展示しました。

副葬品は武器武具類が多いことが特徴で、被葬者の武人的な性質を表しています。また、副葬品のセット関係や配置などが解明できる稀有な事例であり、古墳時代の考古資料の編年研究を進展させ、漆製品や鉄製冑の構造解明に寄与しています。今回の展示は、それらの副葬品を一度に見ることができる貴重な機会となりました。

展示では、1日2回ギャラリートークを実施しました。展示期間中は、1つの前期古墳の一括資料として、日本で最も展示点数が多い展覧会であり、雪野山古墳に興味をもっていただけるよう、自信をもって説明に努めました。

展示最終日の明治大学ホームカミングデーでは、物産展にて東近江市のスイーツ「湖のくに生チーズケーキ」や幻の茶「政所和紅茶^{まんどう}」を販売し、東近江市の味も堪能いただきました。

来場者は22日間で4,957名となりました。台風19号が東日本を縦断したため2日間臨時休館もありましたが、事故なく無事に終了することができました。

●…… 展示室から雪野山古墳へ

展示終了後は、見学者のみなさんが実際に雪野山古墳を訪ねる『雪野山古墳と蒲生野の古墳を巡る旅』と題した着地型バスツアーを実施しました（11/2～3の1泊2日、11/10の1日の計2回）。関東方面から展示を見てこられた方も多数お越しください、ギャラリートーク以来の再会を果たしました。

雪野山古墳からは、万葉集の舞台にもなった蒲生野が一望でき、この地を治めた覇者の勢力圏をほうふつとさせます。さらに、地域のコミュニティセンターにおいて、長大なため明治大学博物館へ運べなかった「竪穴式石室原寸大レプリカ」の展示を見学し、その大きさを実感してもらうことができました。また、雪野山古墳をはじめとする蒲生野に築かれた前・中・後期のお



竪穴式石室原寸大レプリカ



雪野山古墳見学の様子（中央は被葬者の位置を示す）

よそ300年間にわたる古墳を巡り、古墳時代の歴史に浸っていただきました。

●…… 最後に

古墳時代の指標となる雪野山古墳資料の一括展示を初めて首都圏で行うことで、より多くの方にご覧いただくことができました。また各講演会では、雪野山古墳の発掘調査にたずさわられた先生方にお越しくださり、発掘調査当時のお話や研究成果を伺うことができ、理解を深めることができました。今後は、古墳時代研究への寄与だけでなく、教育文化方面への活用も期待し、普及啓発を推進してまいります。

本展開催にあたり、明治大学文学部の佐々木憲一教授をはじめ、博物館の皆様にご尽力いただきました。末尾ながら、記して感謝申し上げます。

内藤氏時代の磐城平城について

田仲 桂

(いわき市文化財保護審議会委員)

磐城平藩とは

磐城平藩は江戸時代を通して譜代大名が統治した。慶長7年(1602)に鳥居氏が10万石で入封(のち12万石に加増)して以降、内藤氏(1622年～1747年)・井上氏(1747年～1756年)・安藤氏(1756年～1871年)と続いて廃藩置県を迎える。

内藤氏時代の磐城平藩は、表高7万石、実高10万690石、檜葉郡・磐城郡・磐前郡・菊多郡の4郡158ヶ村(「郡村之寄」内3-14-65)がその所領であった。現在の福島県いわき市を中心に、双葉郡川内村・広野町・檜葉町・富岡町の一部、すなわち福島県浜通り地方の南部がその範囲にあたる。領地は海に面していたため、献上品には鱒・マンボウ・鮭・鱈・鮫・鰺などの海のものが多く見られる。ときおり鯨も姿を見せ、大がかりな捕獲の様子は「磐城七浜捕鯨絵巻」(いわき市指定有形文化財)に描かれている。領内には51の湯坪をかかえた湯本温泉があり、湯治に訪れたいくつかの旅日記から往事の様子が知られる。正徳元年(1711)の人口は74,755人、家数は13,109軒であった(「諸品覚書」内1-23-33)。

平城の築城

歴代藩主が居城としたのが磐城平城である。城は現在のJR常磐線いわき駅北の「物見ヶ岡」と呼ばれた丘陵に位置した。内藤氏の前任であった鳥居氏によって築かれたと言われているが、一次史料が発見されておらず詳細は不明である。現在語られている築城の様子は後世の物語や編纂物をもとにする。

戦国時代にこの地をおさめた岩城氏の居城は大館城といい、いわき駅から西へ2kmほどの所にあった。明和年間(1764～1772)以降の成立と思われる満蔵寺住職惠南の著『磐城九代記』によれば、鳥居忠政が入封したときの大館城は崩れや破れがあったため、「城ヲ築ベキ處ヲ御見分ナサレ候処、飯野八幡宮ノ社地御覽被成候処分内廣クシテ城郭ニモ可然處成ト思召(句読点は著者による)」、現在地が候補にあがった。「八幡宮ヲ揚土エ引宮ヲ造立シテ、右八幡ノ社ノ跡エ三階櫓ヲ

立、城ノ要害ヲ配リ内城外城ヲ構へ」たという。普請は難航し、領内に廻状を出して人柱を募った「菅波村丹後の人柱伝説」は同書に見える。

内藤氏時代の城

平城の様子は明治大学博物館所蔵の内藤家文書によって明らかになってくる。「奥州岩城平之城覚書」(内3-23-10-34-27)には5代忠興の時代の、本丸・二ノ丸・三ノ丸・大手曲輪・大手外曲輪・煙硝曲輪・水之手曲輪・水之手外曲輪・杉平曲輪・内記曲輪・田町曲輪の間数、堀の長さや堀の深さ、城のまわりを流れる川や目視できる山までの距離などが記されている。平山城で天守はなく、本丸は東西80間、南北85間であった。

元禄2年(1689)には、城内外の植樹に関する達しが出されている。①枳の実を採らせる事、②御風呂屋曲輪土手の漆をとらせる事、同所の空地に漆の実を植えさせる事、③二ノ丸より三ノ丸へつながる土手の下に漆を植えさせる事、④城内そのほか空地に楮を植えさせる事、⑤二ノ丸に栗と柿の台を植えさせ来春つがせる事、⑥杉の苗を植えさせる事、⑦空地に洪柿の木を植えさせる事、⑧二ノ丸に茶の実を植えさせる事、⑨同所空堀の藪垣の裏を刈らせる事、とあり、城には枳・漆・楮・栗・柿・杉・茶が植えられていたことが窺える(「万覚書」元禄2年9月1日条、内1-6-16)。植樹は外からの目隠しや実用に資するためとされるが、平城でも堅くて丈夫な栗の木や和紙の原料となる楮、塗料や接着剤になる漆などが育てられていた。

城内の施錠箇所は門・櫓・蔵・役所など86ヶ所あり、97本の鍵が使われていた(「磐城平城内並諸役所錠鍵帳」内1-20-362)。

災害と普請

磐城領内では豪雨・洪水・地震・津波などの災害が度々おきている。「岩城御領内大風雨大波洪水之節覚書」(内1-22-23)によれば、寛文11年(1671)から延宝8年(1680)の間

【表1】磐城領の災害

年代	災害	城の損害状況	備考
寛文11年8月27日	風雨	土手15ヶ所崩れ	領内は田畑7000石余損亡、溺死5人、206軒倒壊、堤防20ヶ所以上が損壊ほか
寛文11年10月23～24日	風雨	土手10ヶ所崩れ	領内は麦作2000石余損亡、49軒に被害
寛文12年5月5～6日	甚雨	土手7ヶ所崩れ	(領内の被害の記載なし)
延宝2年8月6日	大風雨	土手9ヶ所崩れ	領内は田畑1万400石余浸水、死者2人、605軒倒壊、堤9ヶ所・橋19ヶ所損壊ほか
延宝4年2月4日	(災害なし)		虎口の移動および土橋に築き直しの願
延宝5年10月9日	海辺大波	異常なし	延宝房総沖地震
延宝8年8月25日	(災害なし)		將軍代替りにつき城新規普請方向、うち4ヶ所は以前に普請許可あり未完了箇所
延宝8年閏8月14日	洪水	土手29ヶ所崩れ	3万200石の田畑に浸水、35人が溺死、家屋211軒が倒壊、堤防237ヶ所損壊ほか

「岩城御領内大風雨大波洪水之節覚書」「万覚書」より作成

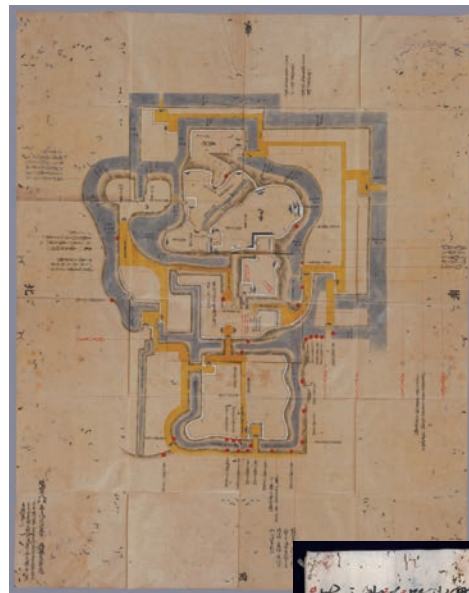
に6回の天災に見舞われた。領内はもちろん城も被害を受け、藩ではそのたびに幕府へ修復願を出している。【表1】

大名が普請をする際は、まず計画書と絵図を作成して幕府に提出しなければならない。老中が審議し、將軍の許可がおりてはじめて工事が可能となる。「岩城御領内大風雨大波洪水之節覚書」は災害の記録であると同時に修復の手続きと文言がわかる史料である。

工事の内容には、土手の修復（土留を石垣に変更）が多く見られる。平時においても崩れやすかった土手は長年の懸案事項になっていたようである。急勾配の土手を削って傾斜を緩やかにしたり、切り下げて道を作るといった工事も行われた。もっとも大がかりだったのは延宝4年、大手曲輪からの出入口の橋を土橋にしつつ虎口（城郭の出入口）を北へ移動させ、かつ土手を削って道を作るものであった。勾配が急な土手に柱を立てて掛けた木造の橋は風雨に弱く、土台の土手もしばしば崩れた。この橋は南および西側から本丸へ入る唯一の橋であったため、一帯が崩れると難儀する。それを解消するための手当てであった。

ところが、工事は必ずしもスムーズに遂行されたわけではなかったようだ。貞享2年（1685）の「岩城之城修理願絵図」（内3-23-10-34-4）には、これまで願い出たもののうち25ヶ所の完了箇所、13ヶ所の未完了箇所が図示されている。この絵図は翌年に幕府に提出された「奥州磐城之城絵図」（内3-23-10-34-5-1）の下書きと思われる。幕府提出用の絵図では若干整理されており、「朱星十八ヶ所は出来仕候、青星十壺ヶ所未出来不仕候（句読点は著者による）」とある。18ヶ所は完了、11ヶ所が未完了として報告され、終わっていない場所の普請願が再び出された。

ちなみに、磐城領をおそった災害のなかで大きなものの一つに延宝8年閏8月の洪水がある。3万200石の田畑に水が入り35人が溺死、237ヶ所の堤防がきれて家屋211軒が倒壊した。城下にも侍屋敷にも浸水するという有り様だった。いわき市では2019年10月12日に台風19号で市内の複数の川が氾濫して甚大な被害となった。先人たちが度重なる災害をどのように乗り越えてきたかを掘り起こすことは、この地で暮らす人々の精神的な支えを創っていくことに繋がると考えている。



上—延宝8年8月25日の修理下絵図。翌月の洪水での破損箇所が追記されている。
(内藤家文書3-23-10-34-3-1)



右—岩城御領内大風雨大波洪水之節覚書
(内藤家文書1-22-23)

本丸跡地のいま

城は井上氏・安藤氏に引き継がれ、文献史料はもちろん絵図や間取図がいくつか残されている。その後、戊辰戦争で幕府軍に与^{くみ}すると、新政府軍の攻撃で城は焼失した。明治時代に入って平城は廃城処分の対象となり、跡地は民間に払い下げられた。いまでは城跡一帯は住宅地になっている。

現在、本丸跡地では公園整備が進められ、事業にともなう発掘調査で御殿跡の遺構が発見された。御殿跡が出土するのは珍しく、保存状態の良さとおわせてその貴重さが指摘されている。さらなる調査はもちろん、地域の文化遺産が適切に保存され、広く市民に公開されることを期待する。

福島県浜通り地方の新たな歴史像の構築に内藤家文書は欠かせない。明治大学博物館の皆様には引き続きお世話になりながら、研究を深めてまいりたい。

内藤藩、江戸虎ノ門屋敷の風景

日比佳代子

(刑事部門学芸員)

江戸時代に佐貫、磐城平、延岡を所領とした内藤家は、三河譜代といわれるとおり徳川家の三河時代からの家臣である。天正18年（1590）に徳川家康が関東に移ると、内藤家長もこれに従い、家康から上総国天羽郡佐貫に2万石を与えられ、佐貫城主となった。家康は、領地以外にも譜代諸将に江戸での屋敷地を与えており、内藤家長の場合も、『寛政重修諸家譜』に「(天正一引用者注) 十九年櫻田にをいて東照宮御杖をもつて邸地を畫して家長にたまはる」とあり(注1)、天正19年に東照宮(家康)から桜田に屋敷地を拝領している。画像1は徳川家康入国以前の江戸を描いた「江戸往古之図」(部分)で、矢印の先が桜田村である。



画像1 「江戸往古之図」部分
(購入寄贈資料一般1989-005)

『寛政重修諸家譜』に「(天正一引用者注) 十九年櫻田にをいて東照宮御杖をもつて邸地を畫して家長にたまはる」とあり(注1)、天正19年に東照宮(家康)から桜田に屋敷地を拝領している。画像1は徳川家康入国以前の江戸を描いた「江戸往古之図」(部分)で、矢印の先が桜田村である。

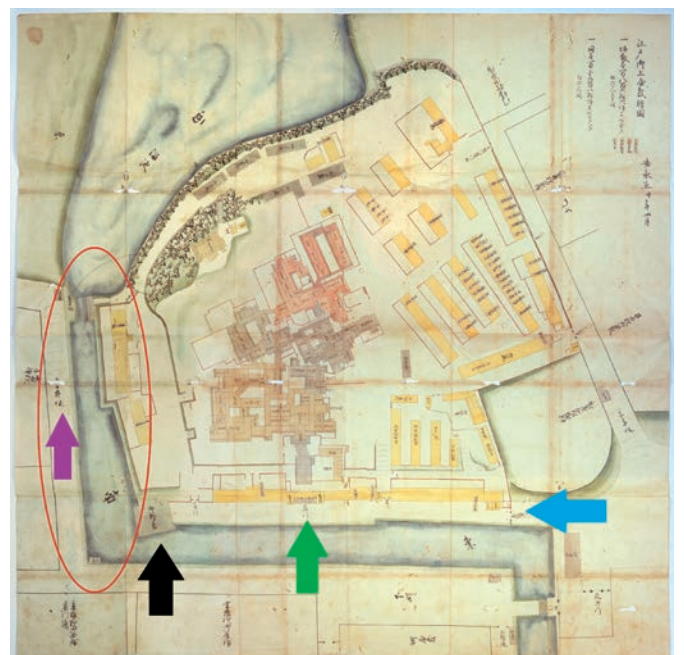
秀吉の死後、徳川家の権力が確立する過程で、諸大名は服属の証に、妻子を人質として江戸に居住させ、国元から離れて江戸で一定期間将軍に仕える参勤を行う様になる。

江戸での住居が必要になった諸大名に対し、幕府は屋敷を与えた。江戸の大名屋敷は、藩主やその家族が居住する場所であると共に、藩の江戸役所としての機能を持つことになる。幕府からあてがわれる武家屋敷の配置は、政治的な理由などで変更されることも多いが、虎ノ門の屋敷地は移動することなく、内藤家は明治4年（1871）までこれを持ち続けた(注2)。

画像2の「外桜田永田町絵図」は、江戸城の西丸の南側、日比谷堀・桜田堀と溜池で挟まれた範囲を描いた切絵図である。武家屋敷、神社仏閣、道路・橋、町家、川堀池、山林土手・馬場・原・植溜などを色分けして詳細に描いている。続いて紹介する画像との関係で、東側が下に来るように回転させて掲載している。☆で示したのが外桜田門、★で示したのが虎ノ門であり、虎ノ門の脇にあるのが内藤藩の屋敷である。この切



画像2 「外桜田永田町絵図」
(2020年度新収資料)



画像3 「江戸御上屋敷絵図」
(内藤家文書政道氏寄贈分1-6-3)

絵図は嘉永3年（1850）版で、この時期の内藤藩の当主は内藤政義、官途は能登守、安政6年（1859）から右近将監である。嘉永3年版のこの切絵図は、もともとは「内藤能登守」と刷られているのだが、張り紙で「右近将監」と訂正がされている。この切絵図をみると、内藤藩の屋敷は、溜池の東端から虎ノ門まで、堀に沿って建てられていることが分かるだろう。幕末期の内藤藩虎ノ門屋敷の面積は1万515坪余だった（注3）。

画像3は安永5年（1776）に内藤藩の虎ノ門屋敷を描いたもので、約1メートル四方もある大きな屋敷絵図である。屋敷の南東側は、堀と屋敷の間に「御櫓台」（黒矢印）に向かう道がある。屋敷の正面入り口となる大御門（緑矢印）はこの道に面しており、通行は外張御門（青矢印）で管理されていた。大御門に入って屋敷にいたるまでは石段があり、屋敷部分は道に対して、さらに高くなっている。

この屋敷絵図で、溜池と堀の境に石段の描き込みがあることに注目して貰いたい（画像3拡大図）。これは溜池から堀に水が流れ落ちる堰である。この堰の風景は、江戸名所の一つで、「江戸名所」を冠する複数の錦絵に描かれている。今回は、当館が所蔵する2点の錦絵を紹介しよう。

画像4「江戸名所四十八景 葵坂」は、この堰と葵坂を描いた錦絵である。画像3の藤色の矢印が葵坂で、赤い○で囲った部分が錦絵で描かれた大体の範囲である。この錦絵では描かれていないが、絵の右手にある高い石垣の上に内藤藩



画像3 拡大図

の屋敷が建っていたわけである（類似の構図で溜池の堰を描いた別の錦絵では、内藤藩の屋敷部分まで描いたものも存在する）。俯瞰ぎみに堰と葵坂を描いているので、堰の向こうには水を湛えた溜池が見えている。向かって左側、葵坂側の石段の上には草が生え、花が咲く様子も描かれている。小さく描かれた画面手前の人だかりは、丸亀藩の屋敷にある金比羅大権現詣での賑わいであろう。画像5「江戸名所道戯盡 虎の御門水の景」は、画像4よりもやや南側に立って水平気味に堰を見る構図である。葵坂の下で外出中のお侍とお供の中間に凧が落ちて糸がからまり慌てているというユーモラスな絵柄である。

二つの錦絵をみていると、江戸名所の一つにあげられる溜池の堰があり、丸亀藩邸の金比羅権現の賑わいがあると、内藤藩虎ノ門屋敷の周囲の活気ある様子が伝わってくる。また、錦絵と画像3の屋敷図をみると、内藤藩虎ノ門屋敷は、北側以外は溜池と堀に囲まれ、堀に面した高い石垣の上にあることがよく分かる。東南側の眺望は開けており、虎ノ門、そして江戸城の防衛上重要な位置にあったことも理解できよう。

ちなみに、葵坂上の草刈と掃除については、周囲の藩邸が担当していたようで、内藤藩は屋敷側の堰の草刈と掃除を担当していた。画像6は、内藤藩の担当部分を朱で線引きした図面である。江戸名所の一つ、溜池の堰の光景に内藤藩も一役買っていたというわけである。

注1 『寛政重修諸家譜』13巻（続群書類従完成会、1965年）

注2 内藤藩虎ノ門屋敷は、明治4年に2300両を下されて召し上げとなった。（「東京府達」内藤家文書3-20-461より）

注3 内閣文庫所蔵史籍叢刊14-16『諸向地面取調書』（汲古書院、1982年）より。本書は安政3年（1856）のものと考えられている。なお、内藤藩虎ノ門屋敷は、江戸時代の間にも場所は変わらないが、土地の広さには変化がみられる。



画像4 「江戸名所四十八景 葵坂」
(2020年度新収資料)



画像5 「江戸名所道戯盡 虎の御門水の景」
(2020年度新収資料)



画像6 「葵坂上草刈並掃除場嘉永三戌年七月御達有之絵図面」部分（内藤家文書2-6-223）

臨時休館中の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症拡大という状況下、3月2日からの臨時休館が決まり、開催中であった「神田発信!大学スポーツの軌跡」展（明治大学史資料センター他共催）の公開も切り上げられました。

4月 7日に東京都など7都府県で緊急事態宣言が出されたことをうけ、翌日からの大学閉鎖が決定しました。28日から予定されていた「植村直己の原点を知る」（植村記念財団他主催）も中止。この間、感染収束後もただちに通常開館は難しいとの判断から制限付開館の形態を模索していました。一方、28日からは遅まきながら臨時閉館にともなうオンライン企画としてフェイスブックに広報誌『ミュージアム・アイズ』のバックナンバーを紹介する記事掲載をはじめました（7月13日まで全10回）。

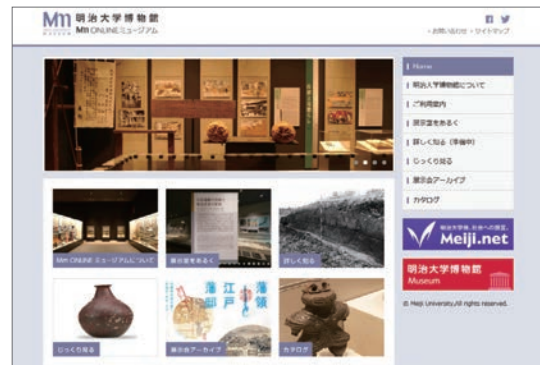
5月 1日からオンライン企画として「明治大学博物館クイズ」をツイッターで発信。フェイスブックと同じく、『ミュージアム・アイズ』を見てもらう趣旨で、過去の記事からクイズを出題しました（7月13日まで21回の掲載）。25日に東京都の緊急事態宣言が解除されると、世間一般では博物館・美術館の公開が予約制など限定的に再開され始めましたが、大学は入構制限措置を継続することになり、6月6日から開催予定の「新収蔵・収蔵資料展2020」についても延期とせざるを得ませんでした。

6月 休館の長期化が現実的となり、オンライン発信用のコンテンツ制作へ重点が志向されました。月末には7月以降の入構制限継続が発表され、7月4日から開催予定の企画展「因・伯・雲のやきもの―山陰の手仕事から―」、7月末には8月18日から予定の「絵図が語る内藤藩の歴史」も延期が決定されます。



Mm×おうちミュージアム

7月 中旬から順次オンラインコンテンツの発信を開始。常設展示室のバーチャル訪問や収蔵資料の高精細画像などで構成される「明治大学博物館ONLINEミュージアム」、常設展示紹介動画を館ホームページ及びYouTubeチャンネルにて公開しました。



明治大学博物館 ONLINEミュージアム



常設展示紹介動画（Meiji University YouTubeチャンネル）

8月 夏休み期間に合わせ、年少者向けのコンテンツを公開。北海道博物館が主宰する「おうちミュージアム」に参画する形で「Mm×おうちミュージアム」の発信を開始しました。

■展示品解説

収蔵資料について、写真や動画に解説を付したコンテンツです。

- ①伝統工芸をまなぶ（静止画）、②刑事部門展示品紹介（静止画／武家諸法度、生類憐みの令、公事方御定書）、③考古部門展示品紹介（動画／青森県亀ヶ岡遺跡出土：遮光器土偶、茨城県玉里舟塚古墳出土：馬形埴輪、東京都茂呂遺跡出土：ナイフ形石器）

■体験型教材

- ①パズル形式の教材「土器をくっつけて復元してみよう」（神奈川県ニツ池遺跡出土：壺形土器）
- ②ぬり絵「明治大学公式キャラクター『めいじろう』と弥生土器」（栃木県出流原遺跡出土：顔面付土器）

※写真のコンテンツは当館ホームページからアクセスできます。

内藤家文書の裁許裏書絵図

江戸時代、山論訴訟などでは、裁判で決まった境界線を絵図に墨書し、絵図の裏面に裏書（判決文）を認めて、訴訟の両当事者に渡した^{※1}。この時、渡されたのが裁許裏書絵図である。館蔵の『奥州檜葉郡磐城相馬三春領境山論絵図』^{※2}も、その裁許裏書絵図だ。宝永元年（1704）^{※3}作成のこの絵図は、内藤家の旧領である磐城領川内村（現：福島県双葉郡川内村）と五万石の譜代大名の秋田家が支配していた三春領古道村（現：福島県田村市都路町）との領境で起こった山論を裁いたものである。



図1：「境山論絵図」表の絵図

表の絵図には、磐城領と三春領と相馬領の境部分、磐城領の吉野田と呼ばれる地域が描かれ、裁判によって確定した三春領との境界線が墨で引かれている。墨線の上を示されている白い丸は、担当奉行の押印があったことを示している。これは写しの絵図なので、判を白い丸で示しているのだ（図2）。

裏書には双方の主張、裁判の流れと判決が記されている。川内村と古道村の境の起点は、磐城・三春・相馬領の境にあたるため、裁判では三領の境がどこかという点が問題になった。訴えた川内村の主張は次の通りだ。川内村と古道村の境は、三郡森から南は鷹鳥屋之腰までである。証拠として、正保年中の御国絵図にも、川内村と相馬領の境は三郡森から描かれているし、三領の境を示す境塚もある。その境に則って、川内村の者は、吉野田和で寛永年中（1624～1644）^{※4}から山畑を拓いて来たが、古道村の者に畑や小屋を焼かれ、水路を壊されるなどした。最近畑を休んでいたが、元禄13年（1700）に再開したところ、古道村の者が、川内村の者の鎌を奪い取り、暴力を振るって来たのだ。

一方、訴えられた古道村は、次のように答えている。川内村と古道村の境は、日山（現：日隠山か）から大鷹鳥屋吉野田和の

勢道通にある炭焼道である。相馬領や磐城領の者は三領の境を示す境塚がある、と言うが実際にはそんな塚はない。根拠もなしに（三郡が接する場所だとして勝手に）三郡森と名付けたのだ。川内村の百姓に暴力を振るったのは、自分たちの土地を守るためだ。

川内村は三郡森を、古道村は炭焼道を境と主張して譲らなかった。この二つの主張をめぐって、検使による検分（現地調査）が行われた。検分をしてみると、古道村が境と主張する炭焼道は新しい道で、境というには疑問があった。しかし、川内村の焼き払われた畑跡も三十年來の畑には見えず、三郡森の塚も簡単なもので境塚には見えなかった。検使は、相馬領の者も呼び寄せて三者の主張を述べさせたが、はっきりしない。最終的には、測量などを用いた結果、三郡の境は相馬領と磐城領の者が主張する三郡森にあたり、川内村の主張が道理にかなうと認められた。幕府は村境を三郡森から鷹鳥屋之腰までと裁定し、境を墨筋で記した絵図を双方に下した。

しかし、裏書にはまだ続きがある。元禄15年（1702）、古道村が再度、検使を求めたというのだ。だが、検分によって、裁定が間違っていないことが再確認された。結局、再検を求めた古道村の者の行為は越訴にあたるとして、宝永元年に流罪が言い渡されたのである。

（勝見知世）

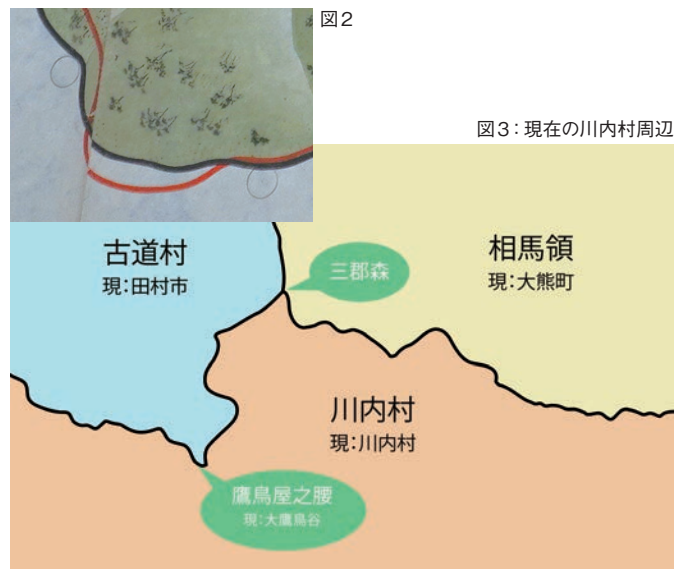


図2
図3：現在の川内村周辺

※1 日本歴史学会編 1989『概説古文書学 近世編』吉川弘文館、103頁
 ※2 明治大学博物館所蔵、内藤家文書3-23-10-34-24
 ※3 内藤家文書の目録上では寛永元年と記載されているが、宝永元年の間違い。
 ※4 後述する検分にて川内村の畑跡が三十年來の畑か否かが問題になっているので、開拓時期は寛永年中ではなく、寛永年中（1661～1673）の可能性もある。

参考文献
 ・杉本史子ほか編 2011『絵図学入門』東京大学出版会
 ・鳴海邦匡 2007『近世日本の地図と測量』九州大学出版会

明治大学・南山大学収蔵資料交換展示、シンポジウムを開催します

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は、2010年より交流協定を結び、相互の収蔵資料の交換展示や学術シンポジウムなどの共同事業を行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度前半の事業が中止になりました。年度後半に次の行事を予定しています。

オンライン交換展示

例年は各館で収蔵している特色あるコレクションの交換展示を行っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度はオンライン上で開催します。実際の展示では陳列しにくいマニアックな資料も出展しますので、ぜひご覧下さい。

期間：2020年9月26日（土）～11月3日（火・祝）

公開場所：各館のホームページで公開します。

・明治大学博物館 <https://www.meiji.ac.jp/museum/>

・南山大学人類学博物館 <http://rci.nanzan-u.ac.jp/museum/>

明治大学博物館

「祈りの人形・土偶」

当館では、代表的な遮光器土偶（亀ヶ岡遺跡）のほかにもさまざまな土偶を所蔵しています。

山形土偶（江原台遺跡）、ミズク土偶（立木貝塚）、遮光器土偶（雨滝遺跡）、土偶脚部（大蚊里遺跡）など、公開される機会が少ない破片資料を含め、多様な土偶の世界を紹介します。



江原台遺跡 山形土偶
(明治大学博物館蔵)

南山大学人類学博物館

「ユーミエン族の文献と神画」

タイ北部の山岳地帯に暮らすユーミエン族の起源神話などを漢字で記した「評皇券牒」や、重要な儀礼の際に壁に掛けられる神画「十八神像」をご紹介します。



「評皇券牒」(南山大学人類学博物館蔵)

予告

明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業

シンポジウム **今、博物館は何をするべきか** ——コロナ以後の持続可能性を考える——

新型コロナウイルスにより世界が大きく変わりつつある中で、持続可能な人間社会を構築していくために博物館がどのように寄与できるのかを考えます。

日時：2020年12月7日（月）13:30～17:30（予定）

会場：南山大学（愛知県名古屋市中昭和区山里町18）

*新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催となる場合があります。詳細が決まり次第、明治大学博物館ホームページでご案内します。



感染予防対策下における開室について

博物館図書室は現在、新型コロナウイルス感染拡大状況や明治大学活動制限指針に応じて限定的に開室しています。開室にあたって、安全に利用するための環境づくりに取り組んでいます。

少人数の完全予約制とすることで密の状態を防ぎ、また扉の開放による換気を行うほか、開室前と昼の利用者入れ替え時にはアルコールで机や機器類などを消毒しています。さらにカウンターにはビニールカーテンを設置し、受付方法を従来と変更することで利用者と職員の接触機会を軽減しています。

今後も図書室資料利用の提供を継続できるよう、感染拡大の予防策を徹底しながら、検討や工夫を続けてまいります。

【開室状況】

- 3月 2日 博物館臨時休館に伴い閉室。
- 3月 16日 学内者(教職員・大学院生・学部生)の一部を対象に限定開室。
- 3月 28日 東京都の外出自粛要請を受け限定開室中止。緊急事態宣言後も閉室。
- 6月 3日 本学の活動制限指針の引き下げに伴い、学内者の一部を対象に月・水・金に2部制(各2時間)で限定再開。
- 6月 12日 オンライン予約制開始。閲覧席数を18から11(予備席4)に縮小。
- 7月 22日 東京都の感染者急増を受けて限定開室中止。
- 8月 17日 学内者の一部を対象に月～金に2部制(各2時間)で限定再開。閲覧席数を4(予備席なし)に縮小。
- 9月 21日 利用時間を3時間、席数を8に拡大。土曜日一部再開。

<参考文献>

日本図書館協会(2020年5月26日更新)「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」
<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/content/information/corona0526.pdf> (参照2020年8月17日)

博物館友の会活動の現在

明治大学博物館友の会は、博物館のサポートを受けながらより良い生涯学習を願う人の集まりです。2020年3月末現在580名余の会員を擁しています。例年、友の会主催の行事（講演会・見学会・会員発表会）、分科会活動および博物館ボランティア活動を意欲的に実施しています。

本年は3月以降新型コロナのウイルス感染防止のため明治大学及び

博物館の方針に従い、分科会・ボランティアを含む友の会の博物館での活動を博物館が完全に自由に出来る段階まで休止としています。コロナ禍により博物館での活動再開が見通しづらいことから、7月からWeb理事会や一部分科会のWeb例会を開催しています。

前例のない困難な状況が今しばらく続くと思われませんが、創意工夫をこらしながら友の会活動の今後の展開を図っていく所存です。

明治大学博物館友の会 連絡先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学博物館友の会

Mail : meihakutomonokaig@gmail.com

ホームページ : <https://www.meiji.ac.jp/museum/company/tomonokai.html>

* 博物館に「友の会」担当者は常駐しておりません。電話での問い合わせは固くお断りします。
 用件はメールまたはハガキにてお願いします。

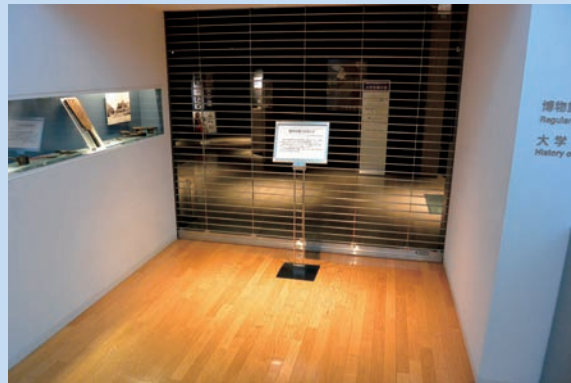
明治大学博物館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年3月2日から臨時休館体制をとっています。再開時、万全の体制で皆様をお迎えできるよう準備を進めて参りますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。臨時休館・再開に関する情報は博物館公式ホームページよりご確認ください。

明治大学博物館公式ホームページ:

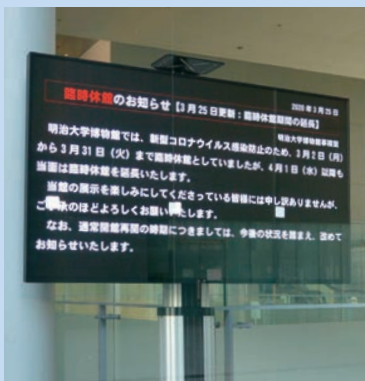
<https://www.meiji.ac.jp/museum/>



アカデミーコモン入口掲示板



常設展示室・大学史展示室入口



アカデミーコモン・エントランス
サイネージ掲示板



博物館公式ウェブサイトでのお知らせ
 (<https://www.meiji.ac.jp/museum/news/2019/6t5h7p000032nvco.html>)

※写真はすべて8月20日時点のものです。最新の情報は公式ホームページよりご確認ください。

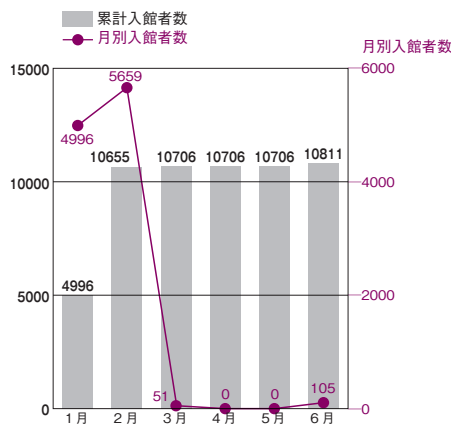
博物館入館者数の動き (2020年1月~6月:延べ人数)

2004年4月以降の
総入場者数累計

1,166,123人

特別展示室来場者内訳	開催日数	来場者数
1/24~3/1 神田発信! 大学スポーツの軌跡	38日間	2,495人
※3/2~臨時休館		

※企画展「神田発信!大学スポーツの軌跡」は新型コロナウイルス感染症の影響により、既定より短い会期での開催となりました。



※臨時休館中である3月・6月の入館者数は、博物館図書室の限定公開によります。

団体見学の記録 2020年1月~2月

※前に見学のお申し込みをいただいた団体のみ掲載しております。

【一般】 木更津市立鎌足公民館 (40名) / 社会福祉法人 原町成年寮 フォレスト (17名) / 所沢市民大学地域史グループ (7名) / 八千代市ふれあい大学OB会 (33名) / 東京散策会 (16名) / 15会 (9名) / 社会福祉法人いたるセンター 阿佐谷福祉工房 (14名) / 中野区すこやか福祉センター (5名) / 友遊 歩こう会 (20名)

【小・中学校】 栃木県佐野市立流出原小学校 (18名) / 古河市立古河第二中学校 第2学年 (5名) / 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 (43名) / 越谷市立中央中学校 2年生 (26名) / 足立区立第十二中学校 (5名) / 世田谷区立砧南中学校 (5名) / 葛飾区立小松中学校 (5名) / 新宿区立西早稲田中学校 (6名) / 館山市立豊房小学校 (14名) / 東村山市立第二中学校 2年生 (12名) / 越谷市立北陽中学校 (20名) / 中野区立北中野中学校 (6名) / 葛飾区立亀有中学校 1年生 (5名) / 調布市立第四中学校 2年生 (6名) / 品川区立荏原平塚学園中学校 1年生 (4名) / 広島市立井口中学校 2年2組5班 (10名) / 世田谷区立千歳中学校 E組2班 (5名) / 上尾市立上平中学校 (6名) / 台東区立駒形中学校 (11名) / 西東京市立田無第三中学校 (5名) / 豊島区立巢鴨北中学校 (5名) / 大田区立雪谷中学校 1年生 (5名) / 大田区立大森第三中学校 2年生 (5名) / 西東京市立田無第一中学校 2年生 (4名)

【高等学校】 鎌倉学園中学校・高等学校 考古学研究クラブ (10名) / 成城学園中学校高等学校 (27名) / 法政大学高等学校 (21名) / 法政大学第二高等学校 (85名)

【大学・大学院・専門学校】 東華大学 (14名)

博物館案内

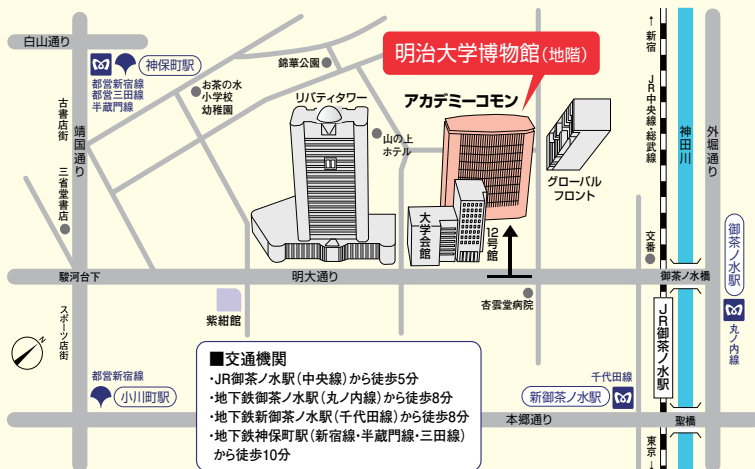
展示室ご利用案内

- ◆開室時間
10:00 ~ 17:00 (入館16:30まで)
- ◆休館日
夏季休業日(8/10~8/16)
冬季休業日(12/26~1/7)
8月の土・日に臨時休館があります。
- ◆観覧料
常設展無料。
特別展は有料の場合があります。

図書室ご利用案内

- ◆開室時間
月~土 10:00 ~ 16:30
- ◆閉室日
日曜・祝日・大学が定める休日
夏休期間(8/1~9/19)中の土曜日

※図書室はどなたでもご利用いただけます。
※ご利用は蔵書の閲覧・コピーのみとなります。



開館の状況については博物館公式ホームページでご確認ください

編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行によりオンラインでの活動が制限される中、博物館としてどのように皆様と結びつき、活動していくかが課題となっています。今号では休館中の取り組みについて紹介しましたが、『ミュージアム・アイズ』もまた、オンラインコンテンツとともに大切な情報発信のツールとして内容の充実に努めていきたいと思っております。